

## 第4回 動詞の人称変化

教科書の該当ページ：15～16 ページ、23～24 ページ、33 ページ

**主語と動詞の一致 (動詞の人称変化)** → 教科書第3課①、第4課①

前回も見たように、フィンランド語では主語の人称と数によって動詞の形が変わります。これを動詞の人称変化と言います。人称変化によって形が変わる部分を人称語尾と言い、形が変わらない部分を語幹と言います。人称語尾は、主語の人称と数に対応して、次のように決まっています。なお、1人称・2人称の人称代名詞(1人称単数 *minä*、2人称単数 *sinä*、1人称複数 *me*、2人称複数 *te*)が主語の場合は、主語を省略することができます。

	単数	複数
1人称	-n	-mme
2人称	-t	-tte
3人称	語幹末の母音を延長*)	-vat/-vät**)

\*) 語幹が母音2つで終わる場合は延長しない。      \*\*) 母音調和によって語尾が決まる(下記参照)。

例えば、「話す」を意味する動詞 *puhua* と「だ」「です」あるいは「ある」「いる」を意味する動詞 *olla* の変化は次のようになります。*olla* は3人称が例外的な変化をします。

	単数	複数
1人称	<i>puhu-n</i>	<i>puhu-mme</i>
2人称	<i>puhu-t</i>	<i>puhu-tte</i>
3人称	<i>puhu-u</i>	<i>puhu-vat</i>

  

	単数	複数
1人称	<i>ole-n</i>	<i>ole-mme</i>
2人称	<i>ole-t</i>	<i>ole-tte</i>
3人称	<i>on</i>	<i>ovat</i>

**基本文型：主語+動詞+目的語** → 教科書第2課③

「AはBを～する」は、A(主語)+動詞+B(目的語)で表わされます。このとき、Aは主格、Bは分格になります。分格には語尾-a あるいは-ä がつきます。-a と-ä は母音調和によって決まります(下記参照)。

例) 彼はフィンランド語を話します。	<i>Hän</i>	<i>puhuu</i>	<i>suomea.</i>
	彼(主格)	話す	フィンランド語(分格)
私はフィンランド語を話します。	<i>Minä</i>	<i>puhun</i>	<i>suomea.</i>
	私(主格)	話す	フィンランド語(分格)

**疑問文：どこに・どこで** → 教科書第4課②

フィンランド語では、「～(場所)で」「～(場所)に」を{中で}格あるいは{所で}格と呼ばれる格で表わします。{中で}格には語尾-ssa あるいは-ssä がつきます。{所で}格には語尾-lla あるいは-llä がつきます。-ssa と-ssä、-lla と-llä は母音調和によって決まります(下記参照)。

例) 彼は公園にいます。	<b>Hän</b>	<b>on</b>	<b>puistossa.</b>
	彼(主格)	いる	公園({中で}格)
私は広場にいます。	<b>Minä</b>	<b>olen</b>	<b>torilla.</b>
	私(主格)	いる	広場({所で}格)

場所がわからなくて、「どこに」あるいは「どこで」と訊きたい場合は、{中で}格あるいは{所で}格を疑問詞 **missä** で置き換えて文頭に置きます。主語と動詞の語順は変わりません。

例) 彼はどこにいますか？	<b>Missä</b>	<b>hän</b>	<b>on?</b>
	どこに	彼	いる

**所有接尾辞** → 教科書第3課③

前回も見たように、「～の」という修飾語句は属格で表わします。「～」が所有者の場合も属格になりますが、所有者が人称代名詞の場合は、属格を使う代わりに所有接尾辞を使います。所有接尾辞は、所有者の人称と数によって決まっています。所有者が1人称単数の場合は、所有接尾辞-**ni** がつきます。

例) ユッシの家	<b>Jussin</b>	<b>talo</b>	⇔	私の家	<b>taloni</b>
	ユッシ(属格)	家			家+所有接尾辞

**母音調和** → 教科書第2課⑤

フィンランド語には母音が8つありますが、調音位置によって2つのグループに分けることができます。前舌母音のグループには **i[i]**, **e[e]**, **y[y]**, **ö[ø]**, **ä[a]**、後舌母音のグループには **u[u]**, **o[o]**, **a[a]** が入ります。前舌母音と後舌母音は同じ単語の中に現れません(ただし、前舌母音に属する **i[i]** と **e[e]** は、後舌母音と同じ単語の中に現れることができます)。これは単語につく語尾にも当てはまります。したがって、母音を含む語尾は、3人称複数の人称語尾-**vat** と-**vät**、分格の語尾-**a** と-**ä** のように、必ず形が2種類あることとなります。

例) 彼らは牛乳を飲む。	<b>He</b>	<b>juovat</b>	<b>maitoa.</b>
	彼ら	飲む	牛乳(分格)
彼らはアイスクリームを食べる。	<b>He</b>	<b>syövät</b>	<b>jäätelöä.</b>
	彼ら	食べる	アイスクリーム(分格)